

令和 8 年度 第 2 回学校運営協議会 会議記録

1 開催年月日	令和 8 年 7 月 1 6 日 (木)
	開議 10 時 00 分
	閉議 12 時 15 分
2 場所	原小学校
3 出席者	委員：15 名 欠席 2 名
	教育長
	事務局：4 名
4 協議事項	1. 原小学校・原中学校の様子について報告 2. 学校応援団活動報告 3. コミュニティルームの活用について 4. はらっこの WA！しおり作成について
1. 開会 2. あいさつ 教育長 3. 児童と懇談 原小学校児童会役員 9 名に参加していただき、4 グループに分かれ、委員会の活動の様子や学校生活について委員と懇談 4. 授業参観 希望の学級を自由に参観 5. 議題 1. 原小学校・原中学校の様子について（各学校長報告） ○原小学校 児童は明るく素直で活発な子どもが多い一方で、不登校傾向にある児童も見られる。そのため、子どもが学校の枠に合わせるのではなく、学校が子どもに合わせる「子ども主体」の学校づくりを目指し、子どもたちが自ら考えて行動し、その結果に責任を持てるような自主性・主体性を育てていきたいと考えている。教職員間においては、「明日も来なくなる学校」という目標や「子どもは自己更新していく存在である」という肯定的な子ども観を共有できている。今後は、大人の都合を押し付ける指導にならないよう、日々の声かけのあり方を見直すなど、継続的な意識改革に取り組んでいく必要があると考えている。地域との関わりや保護者支援については、いくつかの課題と展望があり、例えば、米作りなどの地域活動が義務的なものにならず、子どもたちが主体的に楽しめるような工夫をしていきたい。また、保護者の孤立感も課題。児童間のトラブル時に保護者同士で折り合いをつけられないケースも見受けられる。これを解消するため、コミュニティルームなどを活用し、保護者や地域の方々が自然に繋がれる場を作りたい。さらに「学校でこんなことをしたい」という子どもたちの夢を年に 1 回地域の方々と共有し、協働して叶えていく企画も現在検討している。 ○原中学校 本校は、ワークタイムや縦割り清掃などを通じ学年間の交流を活発に行っている。学習面・生活面においては、不登校傾向にある生徒への継続的な支援や居場所づくりを進めるとともに、ICT との適切な付き合い方に関する指導も継続。教職員の働き方に関しては、週 3 日の 5 時間授業を導入することで、放課後の時間にゆとりを持たせる工夫をしている一方で、教員数の減少に伴い、超過勤務や部活動の指導など、一部の教員に負担が偏ってしまっている現状がある。地域や外部との関わりは深く、地元企業と連携したワイン造りや、よいしょ祭りでのブース出店、学校登山における PTA や地域ボランティア	

ィアの協力など、特色ある地域連携活動を行っている。特別支援学習においては、地域人材のサポートを受けながら、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな個別対応を実施。課題と展望としては、多様化する教育的ニーズへの手厚い支援と、教育の質を落とすことなく教職員の業務負担を軽減することの両立が挙げられ、部活動の地域展開に伴う顧問不足や、スケジュール調整の難しさといった課題への対応も急務と考える。新たな取り組みとしては、防災教育の一環として、学校が避難所になることを想定した宿泊体験や非常食体験を、地域と共同で実施したいと考えている。

2. 学校応援団の活動報告

学校応援団の団員登録は約 60 名。校内中間教室見守りや中学校支援学級のサポート、小学校 2 年生畑づくりの手伝い、学校林作業（雨天中止）、読み聞かせのグループが継続的に活動しているほか、直接学校へ行って授業援助の活動をされている方もいる。今後は、夏休みの学習支援、教職員の勤務時間外や休憩時間中の子どもの見守りを継続的に募集していく。その他、積極的に地域住民を取り込むため、学校登山部やワイン造り協力隊を立ち上げ、専門分野での活動を促す。中学校とも連携し、学校での防災宿泊体験なども今後計画していく。

3. コミュニティルーム整備

卓球台 2 台が配置された。ベランダから出入りできる入口の整備を検討中で、地域の方が学校に入りやすく、児童と気軽に交流できる空間を目指す。

4. はらっこの WA！しおり の作成

学校応援団の目的や意義をまとめたしおりを作成中。関わる全員で大きな方向性を共有するためのツールとして活用を予定。

5. 委員からの意見・感想

- ・不登校などの「枠にはまらない」状態も、人間らしい生き方の一つとして捉える視点が必要。子どもが親や教師以外の大人と関わる経験を通じて、社会への希望や信頼感を持つことができ、将来の社会貢献への意欲に繋がる。学校内において、子どもたちが多様な大人と関わることのできる機会を創出してほしい。
- ・大人と子どもの関わりは、特別な行事を設けることで生まれるわけではなく、毎朝のバス停での日常的な挨拶の積み重ねだけでも、十分に関係性を築くことができる。地域と子どもの関わりは、「大人が子どもを育てる」という一方向的な指導や支援にとどまらず、大人側も子どもたちとのふれあいで元気をもらったり、新たな気づきや学びを得、双方にとって豊かな影響を与え合う関係であるべき。
- ・地域住民が子どもたちに対して安心して声をかけやすい環境をつくるため、パトロール隊のマークのような「安全の印」を活用すると良いのでは。また、地区公民館を活用した交流の場づくりも進め、教員には福祉教育も実施して、学校側と積極的に連携を図っていくことに協力したい。

10. その他 事務局より、はらっこの WA！懇談会（7 月 28 日）と第 3 回学校運営協議会（10 月 21 日、会場：原中学校）の案内があり、第 2 回学校運営協議会は閉会した。